驚きとふしぎがたくさんあつまって 新たな問いとコミュニケーションがうまれていく

縄文のふしぎ

縄文文化と触れ合って、どんなことを感じたのか。みなさんが記入してくれた?と!とQのカードは日に日に増えていき、それをもとに、「気になるワード」として木に足して展示していきました。授業やワークショップに参加してくれたり、縄文人が大事にしていたことに触れて、新たな問いも生まれていきました。



縄文→現代→未来 ?と!とQで育っていく「縄文・気になる木」



来場者が感じた素朴な疑問にビックリ。書かれたカードがどんどん集まり、そこから気になるワードが 実となり、木の展示パネルとして増えていきました。(第二弾の様子)





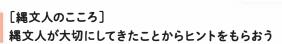
地元の小学生が社会科の授業で来訪。 (第一弾)



気になるワードをみていると、さらに 気になる!知りたくなる!







縄文の人たちの生き方をひもといていくと、人や物を大切にしながら協力や知恵を 出し合って生きてきた姿が見えてきました。今に通じるものもたくさんあります。地 元の学芸員のみなさんが新聞のコラム連載をしていた内容をもとに、考えるきっか けとなるテーマをピックアップし、現代の問いへとつなげるコーナーを作りました。













参加型のコミュニケーションを 可視化する

会期中(第一弾)に集まったカードは約900枚!好評につき、第二弾の開催が決定し、会場内も冬のくらしをイメージしたプチリニューアルが行われました。そのタイミングで皆さんからいただいたカードをすべて読み込み、?と!とQのカテゴリーでまとめ、紹介しました。受け取ったメッセージをもとに、クロージングトークショーも開催。学芸員さんとともに考える時間をつくりました。





